

令和8年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

かほく市立宇ノ気中学校
校長 吉本 仁

1 経営理念

- (1) 学校は、基礎・基本の定着と活用力の向上を図り、主体的に学ぼうとする態度を育成する場である。
- (2) 学校は、組織的な取組で生徒の「人間力」を育成する場である。
- (3) 学校は、健康・体力向上への意識を高め、積極的に挑戦する場である。
- (4) 学校は、安全で美しく整備され、生徒が生き生きと自ら活動できる場である。
- (5) 学校は、地域に根ざし、生徒・保護者・地域に信頼される場である。

2 教育目標 『知性と創造力に富み 人間性豊かな たくましい生徒の育成』

3 中・長期的目標

- (1) めざす生徒像 ～自分の考えを積極的に表現する生徒～
 - ①自ら学び自ら考え、向上心を持って意欲的に取り組む生徒
 - ②互いに尊重し、思いやりと豊かな心を持って行動する生徒
 - ③集団生活での規範意識を持ち、責任を持って行動する生徒
 - ④健やかに生きる体力や健康づくりに積極的に取り組む生徒
 - ⑤郷土の自然や文化に親しみ、地域を愛する生徒
- (2) めざす教師像 ～学び続ける教師～
 - ①生徒の成長を願い、強い情熱と使命感を持つ教師
 - ②教育の専門家として自己研鑽に励み、確かな力量を持つ教師
 - ③組織の一員としての自覚をもとに、協力して職務を遂行する教師
 - ④生徒・保護者・地域から信頼される、豊かな人間性を持つ教師
- (3) めざす学校像 ～明日も行きたい！いじめのない学校～
 - ①生徒が生き生きと活動する、さわやかな活力ある学校
 - ②安全・安心で、一人一人の生徒の居場所のある学校
 - ③保護者や地域に信頼される学校

4 学校の現状

- (1) 生徒
 - ・穏やかで真面目な気風が根付いており、明るい雰囲気の中で学校生活を送っている。諸活動に対して主体的に取り組もうとする姿が多く見られるようになってきた。
 - ・学習意欲が非常に高い生徒がいる一方で、まだ自分なりの学習スタイルを模索中の生徒も見られる。基礎学力の確実な定着を土台とし、自ら考え、周囲に発信する力を育むための指導が必要である。
 - ・家庭との緊密な協力に加え、専門機関とも連携しながら、生徒及びその保護者に寄り添った支援が必要である。
- (2) 教職員
 - ・日頃から生徒一人ひとりの状況把握に努め、問題行動等の情報を迅速に共有することで、組織的に生徒を育むという意識が教職員間に定着してきた。
 - ・自己目標の達成や校内研究の深化に励んでいるが、今後は「育成すべき資質・能力」を常に念頭に置き、組織的な実践をやりきることが求められる。
 - ・通常学級における支援を要する生徒の在籍状況を踏まえ、全職員での情報共有を徹底するとともに、専門性を高める研修を通して、より具体的かつ効果的な方策を身に付ける必要がある。

5 カリキュラム・マネジメント（短期目標）

（1）カリキュラム・マネジメントの柱

他者と協力し、問題解決することができる力

（2）現状

- ・自らの考えを効果的に伝えるため、資料作成や記述表現を工夫し、主体的に発信しようとする生徒が増加傾向にある。
- ・各教科におけるアウトプットの機会設定や、全教育活動を通じた生徒育成の方針について、教職員間の共通理解と実践の連動に課題が残る。

（3）取組内容

①教科横断的な視点

- ・カリキュラム・マネジメントの核となる「目指す生徒像」を各教科で具体化し、全教職員の共通認識に基づいた教育活動を展開する。
- ・総合的な学習の時間や生徒会活動を中心として、各教科での学びを横断的に活用できる表現・発表の場を設定する

②PDCAサイクルの確立

- ・生徒アンケート、教員アンケートの実施（7月、12月）
- ・校内研修会、教科部会を充実させ、「他者と協力して、問題解決すること」について検証する。
- ・学校運営協議会（年4回実施）の委員からの意見を反映させ改善する。

③人的・物的資源の活用

- ・総合的な学習の時間等において、外部講師や専門家を積極的に招聘し、社会とつながる学びを推進する。

（4）日程（年間計画）

- ・7月、12月に実施する生徒アンケート及び教員アンケートを軸に分析、検証を行う。
- ・7月の検証結果は後期の教育課程修正に、12月の検証結果は次年度の教育課程の策定にそれぞれ反映させる。

（5）組織

- ・「カリキュラム・マネジメント部会」を主任会（管理職、教務、生指、研究、各学年主任）で構成する。部会において、取組の分析・検証を実施し、職員会議等で報告する。また、必要に応じて、学年会等で具体的な方策について話し合う機会を設定し進めていく。

6 短期（今年度）経営目標と取組内容 **魅力のある学校づくり**

- 組織的な学校運営 … 共通実践の徹底
- 人間力の育成 … 自分を高める力、自分と向き合う力、他者とつながる力
- 学び続ける教職員集団 … 研究と修養 挨拶 生徒のよさを褒め、認める言葉かけ

（1）学力向上に向けた計画的実践 **「わかった、できた」ことを実感できる授業づくり**

①学力向上に向けた授業づくり

- ・学習指導要領に対応した授業力の向上（単元を貫く問いを軸にした授業展開・生徒指導の4つの視点）
- ・教科の見方・考え方に基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進★（他者と協働し、問題解決する力の育成：カリマネの柱）
- ・日常的な学びのツールとしてのデジタル端末の活用

②学力向上ロードマップ、教科等の資質・能力育成シートを基にした取組の推進

- ・学力調査結果の活用と弱点克服のための取組の推進及び教科部会の充実
- ・学習規律の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組の推進
- ・読書活動や読書習慣の定着と図書館運営の推進

（2）生徒指導の充実 **自己指導能力の育成**

①積極的な生徒指導の推進

- ・伸び伸びと過ごせる楽しい学校・学級づくり 「自他を大切に」
- ・「褒めて、認める」指導の充実（集団の質向上へ繋げる実践）

- ②いじめ・不登校の未然防止と組織的対応の徹底★
 - ・生活アンケートの効果的活用、未然防止・早期発見・早期解決
 - ・社会的自立を目指した「ソレイユ（SSR）」の効果的活用
→かほく市SSRの理念「子供たちの多様性を認め、社会的自立を目指し『チーム学校』で支援する」ことを全教職員で共通理解及び共通実践
- ③基本的生活習慣を高める指導の徹底
 - ・時間を守る行動、黙働清掃、さわやかな挨拶の励行等
 - ・生徒活動（生徒会や三役会）の活性化
- ④教育相談の充実（不登校への対応と未然防止）
 - ・月1回の計画的面談、スクールカウンセラーや関係機関との連携・協力
 - ・i-checkを活用した生徒理解やエンカウンター等の積極的な取組
- ⑤特別支援教育の充実
 - ・「個別教育支援計画（ピンクファイル）」「個別指導計画」に基づく指導・支援
 - ・特別に支援を要する生徒への共通理解と合理的配慮を意識した個に応じた支援
- (3) 信頼される学校づくり
 - ①防災を含む安全教育の推進
 - ・「命を守ること」の防災教育・安全教育の推進
 - ②コミュニティ・スクールの推進
 - ・地域環境（ひと・もの・こと）の積極的活用
(他者と協力し、問題解決することができる力の育成：カリマネの柱)
 - ③積極的な情報発信と学校公開
 - ・ホームページ、学校・学年だより等の充実
- (4) 教員の人材育成
 - ①「若手教員早期育成プログラム」の計画的実践
 - ・学年会を中心とした若プロ→職員全体で若手を育てる意識の向上
 - ・若手のニーズに基づいた校内研修の実施
→教員同士の対話の中から学ぶスタイルに
- (5) 教職員多忙化改善に向けた取組の推進
 - ①業務の効率化を図るための取組の推進
 - ・「チーム担任制」と校務分掌のスリム化の推進
 - ②教職員の業務量適正化と健康福祉の確保及び教育の質の向上の推進★
 - ・時間外勤務時間調査を継続し、効率的な働き方を意識した業務内容の見直しとライフワークバランスの充実
 - ・働き方改革の取組について、保護者や地域へ周知の工夫

★かほく市重点目標

7 共通実践

(1) 学習指導における共通実践

単元を貫く問いを軸にした授業デザイン

(2) 生徒指導における共通実践

生徒が安心して過ごせる居心地のよい雰囲気づくりのための、個を認める声かけ